

令和三年 十一月・十二月の詩
【短歌】
（小倉百人一首）

僧正遍昭

天つ風 雲の通ひ路 吹きとちよ
をとめの姿 しばしとどめむ

光孝天皇

君がため 春の野に出でて 若菜つむ
わが衣手に 雪は降りつつ

能因法師

嵐吹く 三室の山の 紅葉葉は
竜田の川の 錦なりけり

大空を吹く風よ、雲の中の通り道を吹
き閉ざしてください。天女のようなこの
舞姫たちの美しい姿を、もうしばらく
ここにどめておこうと思います。

あなたのために早春の野に出て若菜を
摘んでいる私の着物の袖には、おりから
の雪がしきりに降りつついていることす
よ。

嵐が吹きおろす三室山（奈良県
生駒郡の神奈備山）の紅葉は、竜田川
の川面いちめんに散っていて、さながら錦織
のように美しいことですねえ。